アーサー・ビナードの『詩の風景・ゴミの日』を読む

林　伸一（山口の朗読屋さん代表）

アーサー・ビナード氏の詩集『詩の風景　ゴミの日』は、古川タクの絵入りで、理論社から 2008 年に出された。その詩集には、ゴミとして出された箱いっぱいのハンガーをカラスが木の上までせっせと運んで巣作りに再利用するという「リサイクル」と題した詩が掲載されている。「翌日、ゴミ収集車があらわれたときには／箱は、からだった」とあるから、「ゴミの日」前日のカラスによるゴミ収集の詩であり、詩集の題名の由来であろう。

環境問題に関心の高いビナード氏は、核のゴミの問題についても、同詩集に載せている。

「ねむらないですむのなら」という詩の後半には、次のような長い一文がある。

「もしぼくらがほんとうに／睡眠を必要としない／からだになっていたなら／いつもフルに働いて／

森林がみな伐（き）りたおされ／海も放射能の／スープと化して／産業廃棄物に／うずもれてとっくに／ぼくらは永遠の／ねむりについたろう。」（原文は縦書き、／で改行、漢字にルビが付されている）

「海も放射能のスープと化して…」と書かれているが、東日本大震災で原子力災害が発生したのは、詩集が出された 3 年後の 2011 年 3 月 11 日のことである。ビナード氏としては、東京電力福島第一原子力発電所の事故を 3 年前にすでに予見していたことになる。

同詩集の「ウラン 235」という詩には、電気エネルギーが「みな送電線と変電所を通ってくる」とし、

「なかにはウラン 235 が核分裂して／一グラム当たり二百億カロリーの／熱量がつくりだされる柏崎刈羽か、／福島の第一か第二からのも。」と記されている。

2011 年 3 月 11 日の原発事故以前に世界最大級の柏崎刈羽原発や福島第一・第二原発を憂慮し、作品に書き込んだ詩人は、他にいなかったのではないだろうか。

2001 年にビナード氏は『釣り上げては』で第 6 回中原中也賞を受賞している。その 7 年後に同氏は

『詩の風景・ゴミの日』を出している。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災で原子力災害が発生して後、

安倍総理大臣は「汚染水による影響は、福島第一原発の港湾内の 0．3 平方キロメールの範囲内で完全にブロックされている。…健康問題については今までも現在も将来も全く問題ない」と述べ、東京オリンピックを誘致した。（NHK ニュース・2013/09/08）

ビナード氏は、2020 年の東京オリンピック大会は、開催できないと予言した。実際、新型コロナのパンデミックのために、同大会は 2021 年に延期して開催された。しかも、同大会が終わると 2023 年

度には、東京電力福島第一原子力発電所から出た処理水 3 万 1200 トンを海洋放出している。

ビナード氏の予見通りに「海も放射能のスープと化して」しまったのである。

2024 年 6 月 23 日に山口の朗読屋さんは朗読会で、『ゴミの日』から、上記の詩などを朗読した。

7 月 21 日（日）2 時～4 時、大殿地域交流センター(山口市大殿大路 120－4）において「アーサー・ビナード作品の朗読＋落語＋歌の会」を実施する。定員 50 名。

8 月 11 日（日）1 時～4 時、小郡地域交流センター(小郡下郷 609－1）２階大ホールにおいて「アーサー・ビナードを迎えて朗読＋落語＋歌の会」を実施する。定員 90 名。

上記両日ともに『ゴミの日』と山田洋次 VS アーサー・ビナードの対談（『シネ・フロント』掲載分）を朗読する。ゲストは、福田百合子先生（中原中也記念館名誉館長）と江島屋ブギーさん、トワイライト・フォー。両日ともに参加無料、要予約（☎090・6415・8203 林）